

平成24年3月期(第72期) 中間報告書

〈第2四半期連結累計期間〉平成23年4月1日から平成23年9月30日まで

伊藤ハム株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日～9月30日）のわが国経済は、東日本大震災による大幅な落ち込みの後、サプライチェーンの復旧に伴って生産や輸出など供給面の改善を支えに回復を続けてきましたが、歴史的な円高水準が続いていることに加えて欧州の債務問題や新興国のインフレによる海外経済の減速懸念が現実味を帯びてくるなど、景気の先行きは不透明感が一層深まる状況となりました。

当業界におきましても、震災後の消費マインドは徐々に改善されつつありましたが、食中毒事件や原発事故に伴う放射性セシウムによる肉牛の汚染問題により食肉の販売環境が悪化したことなど、当社グループ事業を取り巻く環境は大変厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループは、今後5年間の経営の基本方針となる新中期経営計画「CNV2015」（平成23年1月31日公表）に基づいて、その基本戦略である「構造改革」と「成長戦略」の実行に取り組んでおります。初年度となる当期においては、希望退職の実施や人事制度改革、船橋工場閉鎖等の生産拠点の再編並びにグループ会社の再編を行うなど、構造改革に重点を置いた施策を着実に実行し、より強い筋肉質の企業体質の構築と業績目標の達成に向けて全社一丸となって取り組んでおります。

当第2四半期の連結業績につきましては、売上高は、主力商品の拡販に注力したハム・ソーセージおよび鶏肉の販売を伸ばした食肉の売上が増加しましたが、不採算商品の撤退・縮小や惣菜子会社の売却により調理加工食品の売上が大幅に減少した結果、全体としては前年同期より5億2千6百万円減少して2,217億2千6百万円（前年同期比0.2%減）となりました。利益面については、惣菜子会社の売却および加工食品の原材料価格の高騰等により売上総利益は減少しましたが、営業利益は構造改革を着実に実行したことに伴うコスト削減効果により前年同期より9億4千8百万円増加して5億3百万円（前年同期は4億4千4百万円の損失）となりました。また、経常利益は、持分法による投資損益の改善により前年同期に比べて13億6千1百万円増加して12億4千4百万円（前年同期は1億1千6百万円の損失）となりました。四半期純利益については、前期特別利益に計上した土地の売却益がなくなった影響により、前年同期より21億2千8百万円減少して2億4千4百万円（前年同期比89.7%減）となりました。

株主の皆様におかれましては、何卒今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

代表取締役社長 堀尾 守



CONTENTS

株主の皆様へ	1	トピックス	6
マーケティングレポート	2	株式の状況	9
財務データ（連結）	3	会社の概要	10
四半期連結財務諸表	4		

マーケティングレポート



加工食品事業

ハム・ソーセージについては“巣籠もり消費”“内食回帰”の流れの中で主力商品である「アルトバイエルン」にキャンペーン、テレビコマーシャルを重点投入し積極的な販売促進に取り組みました。また、お客様のニーズをしっかりと掴んだ商品は高価格でも売れ始めている中、本物志向の「ベルガヴルス」のリニューアルを行い拡販に努めた結果、ソーセージの売上は大幅に増加しました。ギフトについては、市場がシュリンクしていく中で、テレビコマーシャルを投入し主カブランドの「伝承シリーズ」を中心に拡販に努めましたが、セシウム問題による影響もあり、前年同期を下回りました。ハム・ソーセージ全体としては、販売数量が増加したことにより前年同期に比べて売上高は増加しました。

調理加工食品については、主力商品であるチルドピザ「ラ・ピッツァ」シリーズへの新商品投入やイメージキャラクターの効果等もあり「ピザ・スナック類」の売上が拡大する一方、東日本大震災による自粛ムードの中で外食向け商品が影響を受けました。また、構造改革として不採算商品からの撤退・縮小を進めるとともに惣菜子会社を売却した影響により、調理加工食品全体としては前年同期に比べて大幅に売上高が減少しました。

その他商品は、「野菜・サラダ類」「乳製品類」が好調に推移し、前年同期に比べて売上高は増加しました。

この結果、加工食品事業本部の外部顧客に対する売上高は、1,148億1千7百万円（前年同期比2.2%減）、営業利益は7億6千4百万円（前年同期は8百万円の利益）となりました。

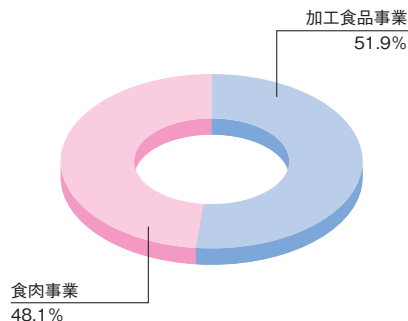


食肉事業

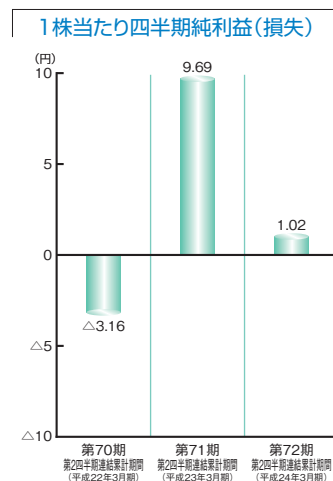
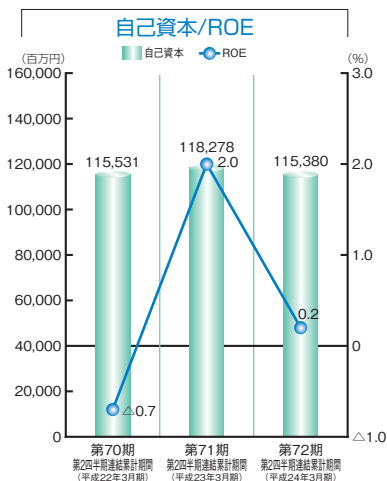
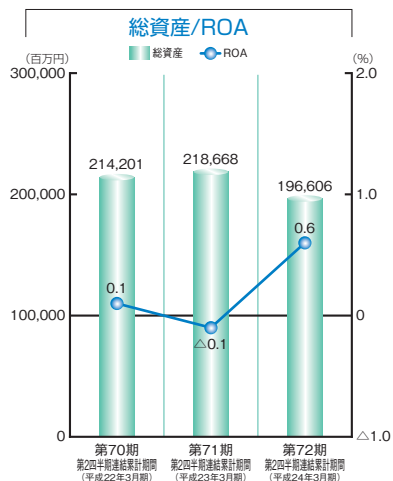
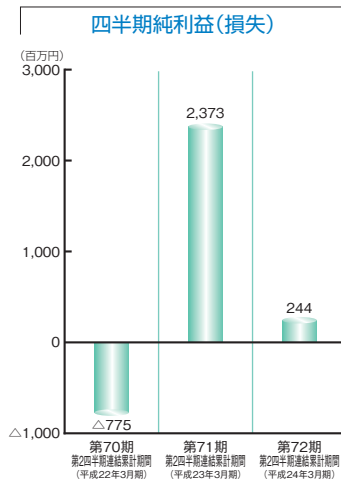
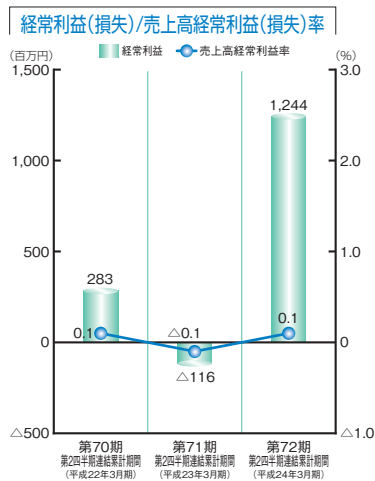
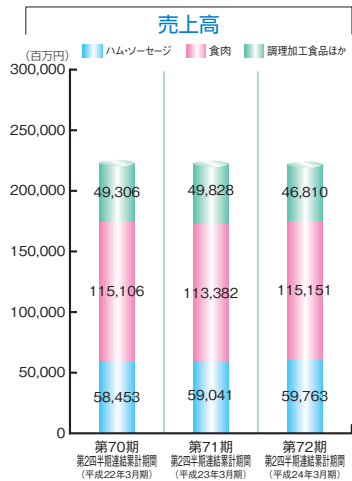
国産牛肉は、東日本大震災による自粛や節約による消費マインドの低下、セシウム問題等取り巻く環境は厳しいものとなりました。特にセシウム問題につきましては、自主検査体制を整え顧客要請に応じることで販売量維持に努めましたが、売上、利益とも減少する結果となりました。国産豚肉は、出荷頭数の減少を受けて販売量が減少しましたが、相場の上昇や在庫数量の絞込みにより安定した利益を確保できました。輸入牛肉は、構造改革による豪州の畜産事業からの撤退や国産牛肉同様に東日本大震災による自粛・節約ムード、さらに食中毒事件等により需要が落ち込み、売上高は減少しましたが、収益性の改善が進みました。輸入豚肉は、フローズンボークが外食需要の低迷から厳しい状況となる一方で、チルドボークは内食需要の高まりから取扱量が拡大し販売を伸ばしました。鶏肉については、鳥インフルエンザや東日本大震災により東北産地における生産が減少したことなどに伴って輸入量が増加し、国内在庫の余剰感から収益面では厳しい状況となりましたが、積極的に拡販を行った結果、販売量、売上高とも大幅に増加しました。

この結果、食肉事業本部の外部顧客に対する売上高は、1,066億3千9百万円（前年同期比2.0%増）営業利益は3億8千4百万円の損失（前年同期は6億9百万円の損失）となりました。

■ 部門別売上高構成比



財務データ（連結）



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科 目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成23年9月30日)
（資産の部）		
流動資産	119,777	109,991
① 現金及び預金	35,027	11,140
② 受取手形及び売掛金	43,570	45,991
有価証券	—	10,749
③ 商品及び製品	22,671	23,876
③ 仕掛品	393	459
③ 原材料及び貯蔵品	13,848	11,966
その他	4,425	5,957
貸倒引当金	△159	△149
固定資産	84,779	86,614
有形固定資産	49,885	49,233
無形固定資産	1,330	1,228
投資その他の資産	33,563	36,152
資産合計	204,557	196,606

科 目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成23年9月30日)
（負債の部）		
④ 流動負債	61,828	63,504
⑤ 固定負債	25,999	17,172
負債合計	87,827	80,676
（純資産の部）		
株主資本	116,115	115,677
資本金	28,427	28,427
資本剰余金	30,042	30,047
利益剰余金	59,778	59,300
自己株式	△2,133	△2,098
その他の包括利益累計額	△114	△296
その他有価証券評価差額金	1,862	1,948
繰延ヘッジ損益	44	△145
為替換算調整勘定	△2,021	△2,099
新株予約権	82	60
少数株主持分	646	488
純資産合計	116,729	115,929
負債・純資産合計	204,557	196,606

ポイント

- ① 現金及び預金
(譲渡性預金含む)
13,138百万円減
- ② 受取手形及び売掛金
2,420百万円増
- ③ たな卸資産
611百万円減
- ④ 流動負債
・支払手形及び買掛金：5,977百万円減
・1年内償還予定の社債：10,000百万円増
- ⑤ 固定負債
社債：10,000百万円減

四半期連結財務諸表

四半期連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	前第2四半期連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
① 売上高	222,252	221,726
売上原価	178,316	181,176
売上総利益	43,936	40,549
販売費及び一般管理費	44,380	40,045
営業利益又は営業損失(△)	△444	503
営業外収益	860	1,058
営業外費用	533	317
経常利益又は経常損失(△)	△116	1,244
特別利益	4,100	395
② 特別損失	911	1,163
税金等調整前四半期純利益	3,071	476
法人税等	651	211
少数株主損益調整前四半期純利益	2,420	265
少数株主利益	46	20
四半期純利益	2,373	244

ポイント

- ① 売上高
 - ・ハム・ソーセージ： 721百万円増
 - ・調理加工食品ほか： 3,017百万円減
 - ・食肉： 1,769百万円増
- ② 特別損失 事業構造改革費用： 752百万円

四半期連結包括利益計算書

（単位：百万円）

科 目	前第2四半期連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,420	265
その他の包括利益	△1,965	△181
その他有価証券評価差額金	△1,272	87
繰延ヘッジ損益	△401	△190
為替換算調整勘定	△51	△1
持分法適用会社に対する持分相当額	△240	△76
四半期包括利益	454	83
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	411	62
少数株主に係る四半期包括利益	42	21

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	前第2四半期連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	△2,718	△6,993
投資活動による キャッシュ・フロー	601	△6,858
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,498	437
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△94	31
現金及び現金同等物 の増減額(△は減少)	△4,710	△13,382
現金及び現金同等物 の期首残高	39,990	34,706
現金及び現金同等物 の四半期末残高	35,279	21,324

トピックス

グループ再編で新子会社3社設立

当社では、新中期経営計画（CNV2015）の基本戦略として「構造改革」を掲げ、当社グループ全体を効率性・地域性・チャネル特性の観点から見直し、各事業の対面業界の特性に応じた組織や経営体制を構築するためにグループ再編を行い、10月1日に新子会社3社を設立いたしました。また、伊藤ハムデイリー(株)を存続会社として伊藤ハム食品(株)を合併しております。

伊藤ハムウエスト(株)

九州地区および中四国地区の加工食品事業再編

概 要	本店所在地：佐賀県三養基郡基山町大字長野970-1 代表者：代表取締役社長 福山 宏務 事業内容：食肉加工品の製造および販売、調理加工品、惣菜類の製造および販売	九州エリアおよび中四国エリアの加工食品事業を製販一体型の地域子会社とし、地域性や事業特性に応じた制度設計を行うことにより、マーケットの環境変化に対して迅速な対応ができる体制を構築する。
	資本金：9千万円 株主構成：伊藤ハム(株)100% 決算期：3月31日	

アイエイチロジスティクスサービス(株)

物流機能の再編

概 要	本店所在地：兵庫県西宮市高畑町4-27 代表者：代表取締役社長 山岡 豊和 事業内容：食肉加工品および調理食品の入出荷、配送	当社グループの物流機能を一元化することによるスケールメリットの拡大および物流の整流化により、物流機能の効率化とコスト競争力の強化を図る。
	資本金：9千万円 株主構成：伊藤ハム(株)100% 決算期：3月31日	

伊藤ハムヒューマンサービス(株)

業務支援機能の再編

概 要	本店所在地：兵庫県西宮市高畑町4-27 代表者：代表取締役社長 堀 博晴 事業内容：人事関連業務、人事システム構築・運用	人事関連業務についての専門スキルと豊富なノウハウを活かし、当社グループでより一層の業務効率化を進めることと当社グループ内に低コスト・高品質の人事サービスの提供を図る。
	資本金：3千万円 株主構成：伊藤ハム(株)100% 決算期：3月31日	

「伝承シリーズ」の最高峰ギフト「伝承」発売

今年のお中元ギフトより、「伝承シリーズ」の最高峰ギフト「伝承」を発売いたしました。

デパート・営業チャネル共通ブランドとなる「伝承」は、原料肉に国産豚肉を使用し、創業時より培われてきたハム造りを継承してできあがった特選ギフトです。5千円～1万円の高価格帯のブロックタイプと、使い勝手の良いバラエティタイプを取り揃え、消費の場面によって“使い分け”する昨今のお客様のニーズに対応しております。

中元期は目標を上回る販売結果となり、歳暮期には、創業社長伊藤傳三の“素材の味を引き立てる”というハム造りの想いと80余年受け継がれてきた製法でつくり上げたギフトであることを、TVCMや店頭販促を通じてお客様に伝えていくことに注力し、「伝承シリーズ」の最高峰ギフトとしてさらなる拡販を目指してまいります。



「減塩&糖類ゼロ ポールウインナー」発売

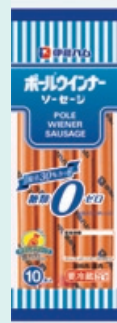
当社のロングセラー商品「ロイヤルポールウインナー」の姉妹品として、糖類ゼロ※1および塩分を30%カットした※2「減塩&糖類ゼロ ポールウインナー」を発売いたしました。

健康志向の高まりを背景に、食品市場における健康カテゴリーの商品は拡大傾向にあり、特に『0(ゼロ)』をアピールする商品群はすでに店頭で定番となっております。そこで、「ロイヤルポールウインナー」のユーザーの皆様が、健康を気にする年齢に到達していても健康的な生活を楽しんでいただけるよう、お肉のうま味をそのままに「塩分30%カット」と「糖類ゼロ」を特徴とするポールウインナーを発売することになりました。

また、主原料として豚肉を使用することで、食べやすいマイルドな味わいに仕上げていますので、初めて食べるお客様やお子様にもおいしく味わっていただけます。今後も家族みんなが手軽に楽しめる商品として提案してまいります。

※1…栄養表示基準により

※2…一般のウインナー製品と比較して（五訂増補日本食品標準成分表より）



トピックス

「生地」に感動！！「ラ・ピッツァ スペシャルンテ」発売

ご好評いただいているこだわりのピッツァブランド「ラ・ピッツァ」シリーズから、さらに生地にこだわった「ラ・ピッツァ スペシャルンテ」シリーズ2品を発売いたしました。

「ラ・ピッツァ スペシャルンテ」シリーズは、ラ・ピッツァの特長である「生地」に感動！！していただくために耳までもちもちのナポリ風生地を使用し、ポロネーゼソース・3種のチーズ・具材でご満足いただけるボリュームに仕上げております。

「ラ・ピッツァ スペシャルンテ 黒胡椒を効かせたパストラミビーフ」にはあらびき黒胡椒を、「ラ・ピッツァ スペシャルンテ ベーコンが美味しいポロネーゼ」にはローストガーリックを振りかけ、それぞれアクセントのあるメニューに仕上げました。ご夫婦2人世帯（大人）の夕食の一品に、お酒のお供にもご満足いただけるピッツァです。



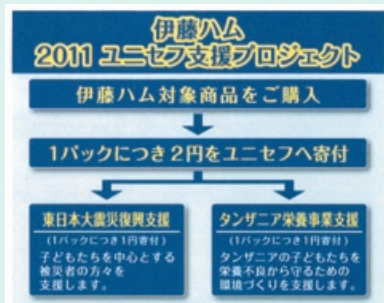
「伊藤ハム2011ユニセフ支援プロジェクト」を実施

10月1日から11月30日の2カ月間、「伊藤ハム2011ユニセフ支援プロジェクト」を実施いたしました。

今年は、対象商品の販売数量に応じて1パックにつき2円をユニセフへ寄付し、2008年から継続してきた「タンザニア支援プロジェクト」に加えて、東日本大震災の復興も支援いたします。

【対象商品】

- ・ポークビッツ 90g
- ・マジ旨あらびきウインナー 243g
- ・マジ旨あらびきプチフランク 243g
- ・チーズイン 90g
- ・さわやかパックうずぎりホワイトロース 100g
- ・チキンナゲット 180g



株式の状況 (平成23年9月30日現在)

株式の状況

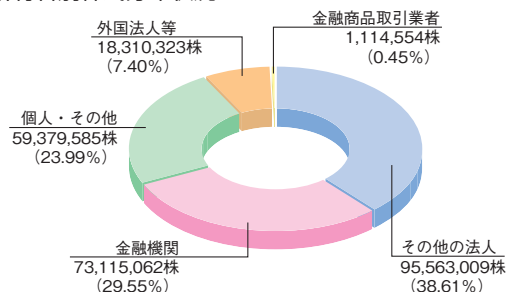
発行可能株式総数	342,013,000株
発行済株式総数	247,482,533株
株主数	36,369名

大株主

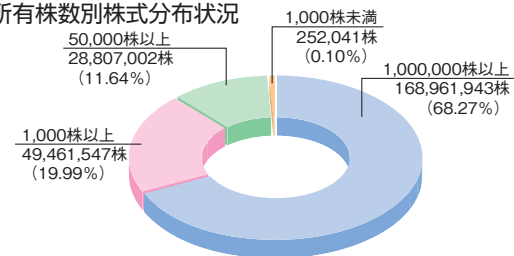
	持株数(千株)	持株比率(%)
三菱商事株式会社	49,656	20.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	16,777	6.96
財団法人伊藤記念財団	12,000	4.98
エス企画株式会社	9,521	3.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,840	3.25
丸紅株式会社	7,099	2.95
株式会社三井住友銀行	6,303	2.61
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,303	2.61
財団法人伊藤文化財団	6,200	2.57
日本生命保険相互会社	5,362	2.22

(注) 持株比率は自己株式(6,416,422株)を控除して計算しております。

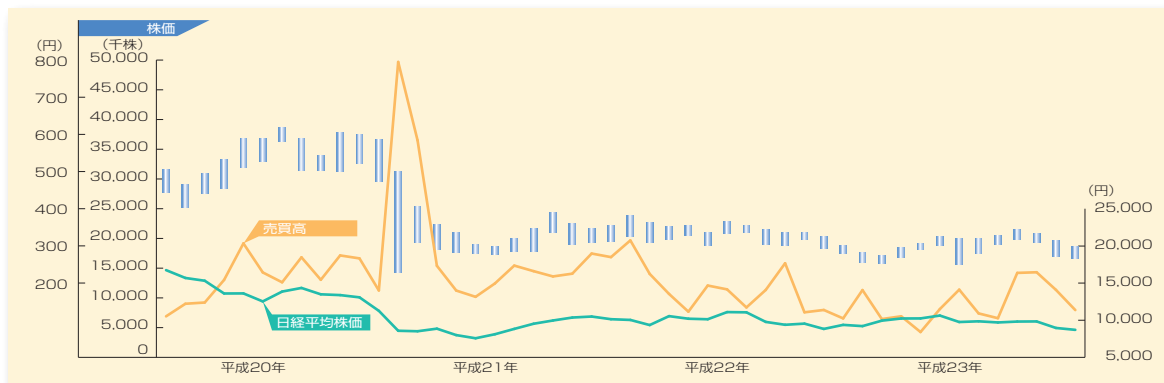
所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況



株価・売買高推移



会社の概要 (平成23年9月30日現在)

社名 伊藤ハム株式会社
本社事務所 〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号
電話 0120-188-617 (通話料無料)
創業 昭和3年4月
設立 昭和23年6月29日
資本金 284億2,754万円
従業員数 2,323名
主要な事業内容 食肉加工品 (ハム・ソーセージ、調理加工食品、その他)、食肉などの製造販売を主な事業活動としています。
主要な事業所 東京事務所 (東京都目黒区三田1丁目6番21号)
西宮工場 (兵庫県西宮市)
東京工場 (千葉県柏市)
豊橋工場 (愛知県豊橋市)

取締役および監査役、執行役員

代表取締役社長	堀尾 守	執行役員	藤原 芳士
取締役常務執行役員	石井 隆	執行役員	中島 壽徳
取締役常務執行役員	池内 博昭	執行役員	市田 健一
取締役執行役員	菊地 清貴	執行役員	村田 定治
取締役執行役員	辻川 禮孝	執行役員	岩下 康之
取締役執行役員	柴山 育朗	執行役員	福山 宏務
取締役執行役員	伊藤 功一	執行役員	平岡 昌樹
取締役 (社外)	棟方 信彦		
常勤監査役	岩本 信剛		
常勤監査役	田村 和彦		
監査役	岡本 忍		
監査役	今村 昭文		

(注) 監査役のうち、岡本忍氏および今村昭文氏は、社外監査役であります。



本社 / 西宮工場



東京事務所

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
期末配当金基準日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月中
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京・大阪
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.itoham.co.jp/corporate/ir/e-koukoku/index.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

INFORMATION

1. 情報満載のホームページを開設しています。

<http://www.itoham.co.jp>

IR情報も掲載しておりますのでご利用ください。

2. 配当金をゆうちょ銀行口座へお振込みすることもできます。お手続きにつきましては株式の口座を開設されている証券会社等へお問い合わせください。



伊藤ハム

まごころの伝承。
お歳暮は、伊藤ハム。

国産豚肉

伝承 特選ローズハム
伝承 特選ボンレスハム